郷土かみのかわの歴史・文化財

人物から見た上三川の歴史　下毛野古麻呂

下毛野古麻呂は飛鳥時代から奈良時代直前にかけて活躍した貴族です。下毛野氏は下野国河内郡を本拠地とする豪族で、上三川町も当時は下毛野氏の支配下にあったと考えられます。古麻呂は地方豪族出身でありながら、中央貴族化した人物で、7世紀後半から8世紀前半に、中央の政治の表舞台で活躍しました。その中で特筆すべきは、日本の歴史上初めて律と令がそろった「大宝律令」の編纂の中心人物であったことです。「律令」とは刑法である「律」と行政法である「令」から構成されるもので、法治国家としての体裁を整える上で必要なものでした。大宝律令の成立は、日本が中央集権国家としての独立した国家になったことを示すものであり、到達点といっても過言ではありません。

このような重要な国家プロジェクトの中心には、古麻呂以外にも、日本を背負った多くの優秀な若い貴族たちが関わっています。天武天皇の皇子で、彩色壁画で有名な奈良県の高松塚古墳の被葬者とも考えられている刑部親王、大化の改新の功績があった中臣鎌足の子で、藤原氏の繁栄の基礎を築いたことでも有名な藤原不比等、遣唐使として唐に派遣され則天武后より司膳員外郎に任ぜられ、政治改革に携わった粟田真人といった人々です。

古麻呂は、大宝律令の完成の功績により、朝廷の最高官職である太政官の官職である参議に任じられると、705年に軍事をつかさどる兵部省の長官、707年には24歳で亡くなった文武天皇の造山陵司（陵墓建設の責任者）に、708年には文官の礼式や教育を掌る式部卿の長官も兼任しました。このように見ると古麻呂は優秀な文官のように見えますが、708年に大将軍に任ぜられていることから見ると、武人としても優秀だったことがわかります。

このように中央の舞台で活躍をした古麻呂の活躍を、今にとどめる多くの重要な遺跡が上三川町に所在します。その一つが上神主に所在する下野国河内郡役所と考えられる国指定史跡上神主・茂原官衙遺跡、同じく河内郡役所関連史跡と考えられる町指定史跡多功廃寺址です。町内には当時の官道である東山道も走っていたことがわかっており、都における古麻呂の活躍によって、河内郡も繁栄したことがわかっています。

上神主・茂原官衛遺跡は、下毛野古麻呂との関係が指摘されています。

西暦	年号	できごと
672		壬申の乱。大海人皇子、天武天皇になる。
684		八色の姓制定。
689		古麻呂、奴婢600人を解放する。
		飛鳥浄御原令が完成する。
690		則天武后、実権を握り国号を周とする。
694		持統天皇が、藤原京に都を移す。
697		東ローマ帝国がイスラム軍と戦う。
700		**古麻呂、文武天皇の命を受け律令の制定を命じられる。**
701	大宝元	大宝律令が完成する。
702	大宝2	古麻呂、参議に任ぜられる。
702	大宝2	遣唐使として粟田真人、山上憶良が派遣される。
703	大宝3	古麻呂、田20町、封50戸を下賜される。
		古麻呂、功田20町を下賜される。
705	慶雲2	古麻呂、従四位上に叙せられ、兵部卿に任ぜられる。
707	慶雲4	古麻呂、文武天皇の造山陵司に任じられる。
708	和銅元	古麻呂、式部卿に任ぜられる。
		古麻呂、正四位下に叙せられ、大将軍に任ぜられる。
		和同開珎が作られる。
709	和銅2	古麻呂死去。